

週日の説教

金 大烈 神父 2008年10月9日(木)

《必ずかなえられると信じて、強く願いましょう》

今日の福音(ルカ11・5 - 12)もとても有名ですね。

福音の話をする前に、常識では納得できないと考えていることがあるので、楽しむ気分でわかちあいたいと思います。

ある人にお客さんが来ることになりませんが、食べさせるものがなくて、友達の家へ行きます。そして、緊急の事態なので何か貸してもらえないかと頼みます。すると友達は、「私はもう寝ているし、子ども達も寝ています。だから、あなたに貸してあげることはできません」と断わります。しかし、よく考えてみれば友達ならばありえないことですね。知り合いの人が隣の家の人ならば、そういうことはあるかもしれません。しかし、友だちなのにこのような願いを面倒と感じるのでは、真の友とはいえないでしょう。もし私が夜中に困ることがあって、助けてくださいと電話をしたら、断わりますか？断わらないと思います。ある日急にお客さんが来たのに何ももてなすものがないから、何かあれば貸してほしいと行ったわけです。そして、毎日行くわけでもありません。

表面的には、このような友だちならば、つきあわないほうがよいと思います。これでは友だちとは言えません。人間性も情けもない人です。

そうしますと、イエス様はなぜこのようなたとえとして、「友だちだからということではあなたを助けないけれど、執拗に頼めば面倒になって助けるだろう」という表現をされたのでしょうか。納得できない箇所です。

とにかくイエス様がおっしゃった中心的なメッセージは、皆様もご存知のように、『求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門を叩きなさい。そうすれば、開かれる』です。

この言葉を聞いて、私たちは何を反省するべきでしょうか。

易しく言うと、本当に求めたことがありますか？必ずくださると信じながら強く求めたことがあるでしょうか？疑いなしに求めたことがあるでしょうか？

本当に探していたのでしょうか？自分を一番幸せにするものは何であるか、どのような道が正しいか、自分に与えられた命をかけて一番正しいものを強く探そうとした経験がどのくらいあるのでしょうか。門を叩きましたか？息苦しくて何も浮かばない中、真っ暗で何も見えないところで、'何とか助けてください'と言いながら、ひざまずいて涙を流しながら叩いたことはありますか？

不幸なことに実際に信仰者である私たちでもこういう3つの簡単な、そして一番大切なメッセージを聞き流してしまうことが多いのではないのでしょうか。

たとえば、家庭訪問をしていて驚いたことですが、太田教会には、子どもが生まれなくて悩んでいる家庭が結構あります。そういう場合、なぜそうなのかを医学的にいろいろ探してみます。しかし、赤ちゃんを求める心とともに、神様に強く願い、「"聞いてください"と祈れば、必ず聞いてくださる」という強い信仰を持つことが私たちには何より必要ではないかと思えます。

私には、求めようとする心を神様が、必ず聞いてくださるという確信があります。

こういう福音を読んだ時、自分の力ではできない何かに襲われた時、「必ず聞いてくださる」、「必ず必ず助けてくださる」という強い心を持って願ったことが、何回あったか、よく考えてください。そしてこのような時こそ、神様を忘れる、という誘惑が一番大きいときでもあります。

信仰の始まりは、全てのことをイエス様に委ねることから始まることを意識的に毎日毎日振り返ってみる必要があるのではないかと思えます。

皆様、願うことがあれば、それを強く願ってください。必ずかなえられると思いながら願ってください。イエス様は無視する方ではありません。必ず聞いてくださると固く信じてください。

ありがとうございました。